

サンフロント21 懇話会

〒410-8560
沼津市魚町1番地 サンフロント5F
静岡新聞社・静岡放送
東部総局内
事務局
TEL.055-962-6520

2022.10.26 No.127

第28回 伊豆地区分科会

ウィズコロナ時代の 持続可能な観光地

■日時 / 2022年9月5日(月) ■会場 / ホテルサンバレー富士見



サンフロント21懇話会は9月5日、ホテルサンバレー富士見(伊豆の国市)で2022年度伊豆地区分科会を開催した。会員の企業経営者、県・市町長ら行政関係者、県議ら約100人が出席し、伊豆地区の温泉や歴史等、代表的な地域資源を活かした新たな観光メニューの必要性等を討議した。

記念講演では、沼津市在住の歴史作家で静岡新聞夕刊に『頼朝 陰の如く、雷霆の如し』を連載中の秋山香乃氏が「頼朝再発見! in 伊豆」をテーマに、自身が推す伊豆での頼朝エピソードを紹介した。

主催者挨拶



静岡新聞社常勤顧問

谷川 治

本日はお忙しい中、伊豆地区分科会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の猛威はなかなか収まりません。8月には過去最高の感染者数を記録する自治体が相次ぎました。行動制限こそ出ていないものの、コロナ禍での伊豆の観光産業は大きなダメージを受けております。ただ手をこまねいているのではなく、サスティナブルな観光地として生き残っていくためにもウィズコロナ時代の方向性を定めていかななくてはなりません。

今回の分科会では伊豆固有の財産である歴史を踏まえ、「ウィズコロナ時代の持続可能な観光地」をテーマに将来を見据えた伊豆地区の在り方について、様々な視点から意見を伺いたいと思っております。

基調講演は静岡新聞夕刊小説『頼朝 陰の如く、雷霆の如し』を連載中の歴史作家秋山香乃さんをお願いしました。続くパネルディスカッションは観光業者や研究者、地元事業者の方々に加わっていただき、様々な視点から意見を伺ってまいります。

当懇話会の活動は今年で28年を迎えました。会員の皆さまのご支援に改めて感謝申し上げますとともに、更なるご協力をお願いし、甚だ簡単ではございますが、挨拶に代えさせていただきます。

懇話会代表幹事挨拶



静岡中央銀行
代表取締役社長

清野 眞司氏

日頃はサンフロント21懇話会の取り組みや活動にご理解ご尽力を賜り、この場をお借りし、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染は高止まりが続き、収束の見通しは立っておりません。この夏は行動制限のないお盆となりましたが、伊豆地区の主産業である観光事業は大きな打撃を受けております。こうした苦境の中、大河ドラマや静岡新聞夕刊小説を機に、伊豆ゆかりの武将源頼朝が脚光を浴び、地域の歴史資源への関心が高まっております。

本日の講演講師には作家の秋山香乃さんをお迎えしました。秋山さんの『頼朝 陰の如く、雷霆の如し』は歴史ファンからも大変好評を得ております。秋山さんとご一緒に各界の代表者と“温泉と歴史”をひとつの切り口に、伊豆の観光活性化について意見を交わし、私たちに大きな気づきをもたらしていただく場にしたいと思います。

本年度の懇話会活動はまさに臨機応変の対応を迫られております。本年度も提言や講演、情報交換等の活動が充実するよう、工夫を凝らしてまいります。皆さまの一層のご支援ご協力をお願いし、代表幹事の挨拶とさせていただきます。

開催地挨拶

伊豆の国市観光文化課大河ドラマ館推進室長

佐藤 健太氏

本来でしたら山下正行市長がお伺いし、ご挨拶を申し上げるべきところ、本日は市議会9月定例会のため出席ができません。祝辞を預かってまいりましたので代読させていただきます。

その前に、直近の事業についてご紹介します。すでにネット上では話題になっておりますが、今回の大河ドラマ『鎌倉殿の13人』のロケは、ここ伊豆の国市に大規模なオープンセットを設置したほかにも、近隣市町の沼津市、伊豆市等、主に静岡県東部エリアでの撮影が行われました。先週金曜日まで当市オープンセットを使った最後の撮影があり、主演俳優陣を始め、関係者約200人以上が伊豆長岡温泉に宿泊滞在されました。

滞在中は主演俳優陣やスタッフの皆さんが大河ドラマ館や市内飲食店に足を運び、伊豆の国市を改めて認識していただいたと思っております。エキストラは地元の方々ばかりでなく、近隣市町や県内から多くの方々が参加し、伊豆の国市に宿泊しながらロケと観光を楽しまれました。

ドラマの制作サイドは極力市民エキストラを多く採用し、地元の事業者やお店を利用し、地元の皆さんが関わることで、大河ドラマゆかりの地であることを意識し、再認識されたのではないのでしょうか。当市でのロケは先日終了しましたが、引き続き大河ドラマ館を中心とした誘客やおもてなしの意識醸成に努めたいと思っております。

前置きが長くなりましたが、山下正行市長の祝辞を代読いたします。

山下 正行 伊豆の国市長 祝辞

本日はサンフロント21懇話会伊豆地区分科会の開催誠におめでとうございます。伊豆の国市での開催に心からの歓迎と感謝を申し上げます。

伊豆地域は大河ドラマ『鎌倉殿の13人』を契機とした様々な取組みにより活気づいており、当市においては大河ドラマ館入館者数が8月現在12万1100人と、すでに年間目標10万人を大幅に上回り、他の歴史遺産にも多くの方々が訪れている状況にあります。メディアによる情報発信の威力と、市民の姿勢や多様性を発揮したイベントや商品開発等、官民連携の取組み効果を実感しているところです。

この盛り上がりを一過性にしないために、大河ドラマ終了後においても地域の魅力を最大限に活かし、交流人口の増加や地域資源の活用による消費拡大といった地域活性化につながるような取組みを、放送を機に始まった官民連携で永続的に行うことが重要かと考えております。

本日、伊豆地域の首長や観光関連事業の皆さまが参加し、このような分科会が開催されることは大変有意義だと思っております。様々な業種の会員の皆さまには、今後とも地域課題の解決に、共に取り組んでいただければ幸いですようお願い申し上げます。

基調講演

頼朝再発見! IN 伊豆

講師

作家

秋山 香乃氏



伊豆の国市に住んだからこそ 生まれた小説『頼朝』

私は沼津市の在住ですが、伊豆の国市にも家を持っており、しばらくの間、当市で暮らしていたことがあります。もともと家を買うつもりはなかったのですが、伊豆の国市に来たときに、江間の方から降りてくる風が心地良く、良い〈気〉がある土地だなあ、こんなところで執筆が出来たら名作が生まれるんじゃないかと感じ、思い切って買ってしまいました。

きっと頼朝もこの良い〈気〉の中で過ごしたんじゃないでしょうか。当市に住んでいると頼朝の足跡があちこちで見え隠れしますので、次第に「この人を書いてみたいな」と思うようになりました。頼朝は伊豆で生まれ、武士の国を創った人。私の小説も伊豆に来なければ生まれなかったと思います。

現代人にも理解できる 政子の女心

伊豆に残っている頼朝のエピソードで私が好きなものをいくつか紹介しましょう。

頼朝や北条氏のことが描かれた史記『吾妻鏡』は虚構も多いので、まるきり信じてしまうと大変なことになりますが、今日はとりあえず

『吾妻鏡』の中からエピソードを拾ってみます。

私が好きなのは、なんとと言っても頼朝と政子の駆け落ちシーンです。頼朝は罪人なので、政子の父北条時政は二人の結婚に反対し、娘を屋敷の中に閉じ込めてしまいました。それでも頼朝と添い遂げたいと願っていた政子は、雨の夜、屋敷を飛び出し、頼朝のもとに駆けつけます。『吾妻鏡』にはその時、頼朝がどこに居たのか書いてありませんので、政子がどこに向かったのかわからず、過去の小説では伊豆山神社で落ち合ったというドラマチックな展開が描かれることが多いようです。

私は新聞小説でその説は採りませんでした。よくよく考えてみると、雨の夜、真っ暗闇の中で山を越えて伊豆山神社まで行くなんてとても無理です。普通に考えて、頼朝は蛭ヶ小島の屋敷に居て、そこで落ち合って二人で伊豆山神社のほうへ逃げるとというのが常識的でしょう。ところがいざ書いてみると、雨が降ると中洲にある蛭ヶ小島は沼地状態になるはずで、政子が駆けつけて「貴方と添い遂げます」なんてやりとりをしているうちに移動も不可能になるんじゃないかと思い、雨が止んで水が引いてから移動したという、一番面白くない形で落ち着きました(苦笑)。

次に好きなエピソードも政子がらみです。頼朝が石橋山の戦いで苦戦していたとき、政

子は伊豆山神社に匿われていました。頼朝軍は劣勢らしいという話を聞いて心配していた政子のもとに、頼朝から使者がやってきました。政子を安心させるために使者を送ったと伝えられていますが、史料をよく読むと、頼朝自身が政子に会えずに心細くなり様子を見に行かせた、というのが本当のようです。

頼朝の生存を知って政子は大喜びしましたが、頼朝が使者を送り出したのは石橋山を脱出して真鶴から船を出す直前で、船が出た今現在、はたして頼朝様は無事なのかどうか、政子としてはまたまた心配になった。そんな女心の機微が、今の人たちにも理解しやすいのではないかと思います。

船といえば、調べてみたら、当時の船は大きな丸太をくり抜いただけのもので「そんなもので本当に海を渡ったのか」と驚き、小説では船の構造や操縦法について、ついつい詳しく書いてしまいました。

頼朝の決起事始め

驚きのエピソードをもうひとつ。京に居た頼朝の乳母一族の三善康信は、流人時代の頼朝に、10日に1度という頻度で20年間欠かさず京の情勢を知らせていました。人の足で京と伊豆を10日で往復するのも信じがたい時代、そんなことが可能でしょうか。

頼朝が決起するかしないか悩んでいたとき、京で以仁王の決起が失敗に終わり、平清盛は全ての源氏を抹殺するよう命じます。それを知った三善康信は朝廷にいた弟の三善康清を伊豆へ派遣します。康清は朝廷には病気で休みますと偽り申告して伊豆へ向かい、彼から「奥州に逃げよ」と助言された頼朝は決起の道を選ぶのです。

時系列をみると、4月に以仁王の決起があり、6月に三善康清が伊豆へやってきて奥州行きを勧告し京への帰路についた2日後、頼朝は

決起します。おそらく頼朝の心の中ではすでに決起の意思が固まっていたのでしょう。

7月、父の源義朝に仕えていた武将を「決起する」とは言わずに呼び出します。最初のターゲットは平家派の目代・山木兼隆の館。藤原邦通をスパイとして山木館に送り込み、彼は山木館の詳細な絵地図を書いて持ち帰ります。藤原邦通という人は文筆、作画、占いその他百芸に秀でた才人で、この人を主人公に1本小説が書けるくらいの魅力的な人物です。

決行日を決めたときの有名なシーンですが、頼朝を慕ってやってきた武将たち一人ひとりに「お前だけに言うんだぞ、他言無用だぞ」と耳打ちします。彼らは「自分をこれほど信じてくれていたのか」と感動するんですね。具体的な作戦は北条時政だけに告げたと『吾妻鏡』には書かれていますが、真偽の程はわかりません。

こんなこぼれ話もあります。山木館の下男が北条館の侍女と恋仲で、毎日北条館にこっそり通っていた。頼朝は慎重な人ですから、決起直前まで北条館に武将を集結させるようなことはしません。不穏な動きは一切なかったので、その下男も見過ごされたのですが、決起当日はさすがに捕らえられ、その後どうなったかは不明です。

決起表明後、北条館から山木館までどういうルートで進軍するかで意見が分かります。当日は三島神社の祭礼で表通りが賑わっていたため、北条時政は裏ルートを推したのですが、頼朝は自分の決起事始めだから堂々と表から行くとし、頼朝は館で待機、時政が軍を率いて進みます。

『吾妻鏡』では進軍の途中、山木と親しかった堤信遠の館があるからついでに襲撃した、と伝えられていますが、ついでに、というのはおかしいですね。戦争で怖いのは敵よりも味方がどう動くかです。部下に勝手に作戦変更なんかされたら、將軍はたまったものではありません。したがって、堤を襲撃するのも最

初から作戦の一部だったと考えられます。そもそも山木一人を攻めるなら、頼朝は自分が先頭に立って堂々と攻め込めばいいわけで、別の場所で指揮を執っていたということは、戦闘が複数に及び、全体を見定める必要があったからと考えるのが自然でしょう。

地形の問題もあります。裏ルートで行くと山木館に先に到着し、大通りから行くと堤館が先になります。山木館は背後を取られると抜きにくい地形にあり、山木を先に襲うと堤に気づかれ、背後から攻められる可能性があります。逆に堤から攻めて山木に気づかれたとしてもリスクは少ない。頼朝はそのことを理解した上でこの作戦を立てたのではないかと考察します。

人間頼朝の 喜怒哀楽エピソード



1182年、時政が鎌倉に移って邸を持つてから、例の亀の前事件が起きます。頼朝が妻の政子の妊娠中、亀の前に夢中になって伏見弘綱の邸に住ませます。これを時政の妻・牧の方が政子に告げ口する。怒った政子は牧の方の兄・牧宗親に命じて弘綱邸を破壊させます。これを聞いた頼朝は怒って宗親を呼び出し、彼の髻を切ってしまった。当時、髻を落とされるとするのは素っ裸にされるようなもので、宗親は号泣して逃げたと伝えられます。北条時政にしてみれば、大事な妻の身内が恥をかかされたわけですから、時政も激怒し、伊豆へ帰ってしまいます。滑稽で人間味があるエピソードです。

2年後の1184年、時政は『吾妻鏡』に再登場します。四国で唯一、源氏派だった土佐に平家を攻めよと頼朝からの命を下します。この直後、頼朝は伊豆へ鹿狩りに出かけています。ちょうど源平合戦の一ノ谷が終わった頃で、平清盛の息子重衡が捕らえられ、頼朝のもとへ連行されてきます。

平重衡は自分が参戦した戦は全戦全勝したという名将で、南都焼き討ちを指揮して東大寺大仏殿に籠もった年寄りや女子供2,000人を焼き殺したという逸話もある人。一ノ谷ではしんがりを務めていたのですが、従者に代えの馬を奪われ、逃げる手段がなくなって捕らえられたのです。

平重衡を目の前にした頼朝は「ちょっと試しに戦ってみただけど、平家もたいしたことなかったね」とマウントを取るような態度に出ます。重衡も負けておらず「源平で協力して都をお守りするはずだったが、源氏は何をしていたのか?」「平家が栄えて20年、このような戦況のもと捕らえられたが、武士として少しも恥ずかしくない」と嫌みを返す。平治の乱で捕らえられ捕虜になった頼朝と同じ立場じゃないか、と言いたかったのです。さんざん嫌みを言った後で、「今となっては何も言うことはない」と締めくくる重衡の態度に、鎌倉武士が感動した、と『吾妻鏡』には書かれています。これが名場面だと思う人、いるでしょうか?

同じく源平合戦の最中、頼朝は伽藍建設のために伊豆へ出向き、狩野山で材木を調達したと伝えられます。狩野山というのがどこなのかよくわかりませんが、そこに、周防山口の戦場から「食糧が足りない、退去したい、九州に渡りたいが船がなく渡れない」との書状が届きます。「いやいや山口まで行ったなら、撤退なんてするな。九州に渡るのが難しいなら四国へ行け」と返事を出したそうですが、船がないから九州に渡れないというのに、どうやって四国へ行くの?とツッコみたくなる。頼朝って本当に頭のいい人なのかわからなくなるようなエピソードです。

1190年、頼朝が伊豆山神社へ参詣したときは、かつて苦戦した石橋山の合戦跡を通して号泣したというエピソードがあります。その後、伊豆滞在中に奥州合戦があり、橘公業が討死し、由利維平が逃亡したという知らせが届きま

す。頼朝は「いや逃げたのは公業で、討死したのは維平だろう」と答え、後日その通りだと分かりました。頼朝は部下の性格をちゃんと把握していたのですね。

逃亡した公業は、しばらくして何食わぬ顔で鎌倉へ戻ってきたので、頼朝は激高するのですが、少し時間が経つと「むやみに死に急がず、無事に帰ってきたのだから、あいつにも褒めるところがある」と思い直したそうです。なんとも人間くさいエピソードだなと思います。

歴史作家集団が仕掛ける 地域おこし



ここで地域と歴史についての取組みをご紹介します。操觚の会(そうこのかい)というプロの歴史小説作家・時代小説作家約30名の同好会があります。もともと私の伊豆の国市の家に花見をしに集まった作家仲間が「みんなで何かやろう」と言い出して作った会で、地域と歴史で何かコラボができないかと考え、千葉県佐倉市では本を出版し、作家が講演に出向いたり、地域に伝わる民話をショートストーリーとして再構成してみたりと毎年活動を続けています。佐倉市にも温泉があるので、温泉ホテルを会場に講演と食事と入浴をセットにした観光メニューを作ったりしています。

これを見た他の地域からもオファーがあり、10月にはトークイベントの企画があります。プロの歴史作家を活用するなら手っ取り早いと思いますので、ぜひ、ここ伊豆の国市で生まれた「操觚の会」を利用いただければ、と思います。

私自身、山口県萩市で「萩ものがたり」という雑誌を作り、さまざまな研究家や小説家の方々から萩ゆかりのテーマで寄稿してもらうなど個人でも活動しています。

萩市では面白い観光メニューがあって、昔のホンモノの鎧を着て写真撮影をするというもの。女性用には戦国時代の着物や傘をかぶって写真を撮ります。何が面白いかというと、鎧は当時と同じ20kgぐらいあり、「こんなに重いんだ」と実感できる。実は鎧というのは身体にちゃんとフィットしていれば、さほど重さを感じず、太った人でも鎧を着たまま飛んだり走ったりできるんですね。体験すればわかるのです。伊豆でも、萩や京都のように着物を着て街中を歩いて、YouTubeで世界に発信したら、即座に伊豆をアピールできるんじゃないでしょうか。

最近話題のAI技術に、指示通りの絵を描くソフトがあります。たとえば「浮世絵風」「頼朝」「ネコと遊ぶ」と指示すれば、頼朝がネコと遊んでいる浮世絵が出てくる。そんな技術を活用すれば、伊豆ならではの面白いものができるんじゃないかと思います。

〈講師プロフィール〉

秋山 香乃 (あきやま・かの) 氏

作家

福岡県生まれ、沼津市在住。

『歳三往きてまた』でデビュー。『龍が哭く 河井継之助』で野村胡堂文学賞受賞。代表作『氏真寂たり』『茶々と信長』『茶々と秀吉』『茶々と家康』『氷塊 大久保利通』等。現在、静岡新聞夕刊小説『頼朝 陰の如く、雷霆の如し』を連載中。

パネルディスカッション

ウィズコロナ時代の 持続可能な観光地

パネリスト

- 秋山 香乃 氏 (作家)
- 徳田 和嘉子 氏 (ゆこゆこホールディングス(株)代表取締役社長)
- 矢嶋 俊朗 氏 (日本大学国際関係学部国際総合政策学科准教授)
- 稲村 浩宣 氏 (伊豆の国市観光協会会長、(株)蔵屋鳴沢代表取締役社長)

コーディネーター

- 中山 勝 氏 (企業経営研究所理事長、TESS 研究員)

(中山) 皆さま方が休憩時間に召し上がった温泉饅頭、なぜ茶色いかご存知ですか？温泉饅頭の発祥地は伊香保温泉といわれています。伊香保温泉は茶褐色の泉質で知られており、かつて伊香保の湯に浸かって茶色に染まった手ぬぐいを持ち帰るのが“粋だ”と言われた時代もあったとか。そんなわけで真偽の程は定かではありませんが、温泉饅頭の色も茶色になったというわけです。

さて伊豆地区分科会では毎回観光をテーマにディスカッションをしており、去年はワークショップ、その前は日本遺産、文豪などを

取り上げました。これらは一過性のものではなく、この地域に脈々と流れる伝統でもあります。ブームは一時的に脚光を浴びるもので、ブームが去ると翌年から見向きもされなくなります。観光がそうあってはなりま

せん。地域資源である歴史や温泉に光を当て、どのように活かしていくかが今回のテーマでもあります。よろしくお願いします。

伊豆長岡温泉は 全国トップクラスの泉質

(徳田) 『ゆこゆこ』は2000年の創業で、その後10年ほどリクルート社の傘下に入り、2016年に独立しました。リクルートがデジタル路線で行くのとは逆に、弊社はアナログ路線で観光地にお客様を送り出すビジネスモデルを実践しています。株主には静岡銀行グループの静岡キャピタル様にも入っていただいています。

『ゆこゆこ』は790万人の会員を有し、うち100万人に年6回、隔月に宿泊情報誌を提供しており、年間230万人のお客様を宿泊施設に送り出しています。インターネットもやっています。他の予約サイトと違うのは、どのページを開いても電話番号を付けて、基本は電話で予約をしていただくということです。

なぜこのようなビジネスモデルを採ったのかというと、現役世代やファミリー層の予約が埋まりやすい土日祝日ではなく、予約が取



中山 勝 氏



徳田 和嘉子 氏

りやすい平日に個人で動けるアクティブシニアをターゲットにしたからです。会員のデータを見ますと、平日にご夫婦で車を利用し、外食に出かけるように「明日ヒマだからちょっと温泉にでも行こうか」というように、気軽

に旅行されるという方が多いようです。

『ゆこゆこ』の人気温泉地ランキングを見ると、静岡県では13位に熱海温泉が入っています。他、修善寺、伊東、下田が上位100位までにランクインしています。県内を対象にした顧客アンケートによると、首都圏からの交通至便な熱海、伊東宇佐美が上位を占め、土肥、修善寺、熱川、伊豆長岡あたりが続きます。

温泉好きの顧客は泉質にもこだわりがあります。ご当地伊豆長岡は温泉好きから見ると非常に泉質がよく、ここホテルサンバレー富士見は泉質評価が96点です。このような得点はめったにありません。単純アルカリ泉ですが非常にやわらかく肌にも優しく、なんと飲むこともできます。宿の前に源泉が2本あり、くみ上げ式で掛け流し。これほど優れた温泉であることを、もっと多くの方に知っていただきたいと思っています。

『ゆこゆこ』の顧客が伊豆地区にどんな印象を持っているかをフリーワードで挙げてみると、中伊豆エリアは「観光と旧所名跡」「冬でも暖かい」「情報量がやや少ない」、下田南伊豆エリアは「海がキレイ」「食べ物がおいしい」「大人数に配る土産物の種類が少ない」、西伊豆エリアは「夕日がキレイ」「ドライブして楽しい」「アクセスが不便」とありました。アクセス不便の解消はすぐには解決しないと思いますが、お土産の種類は対応できるのではないのでしょうか。

観光学科の学生の熱意を活かせ

(矢嶋) 私は㈱日本旅行に31年在籍し、1億円のバスを作って100万円の日本一周ツアーをやったり、飛行機をチャーターしての400万円世界一周ツアーなど、ちょっと変わった高付加価値商品を扱ってきました。コロナ以降、日本旅行とJTBはワクチン事務局として稼働していますが、観光学科の学生は旅行が好きで、給料は高くなくてもお客様を喜ばせたいという思いを持って入社しますから、彼らが保たないだろうという危機感もあります。うちのゼミ学生は伊豆の国市をベースに地域のヒアリングを行っており、タクシーのドライバーをつかまえて取材するなど町を歩いて現場の声を聞くということを継続的にやっています。成果がいつ出せるかわからないというジレンマもありますが、現在、市内を走る「歴バスのる〜ら」を対象に、日大理工学部交通システム工房と協働で、「のる〜ら」独自の観光案内を提案しています。

伊豆長岡は東京から近く、踊り子号は一日2〜3本走っており、富士山も見える。同じ世界遺産でも交通不便な富岡製糸場等に比べ、恵まれている。伊豆長岡のポテンシャルをもっとアピールし、ヨソモノやワカモノの力を活かしてほしいと思います。

大河ドラマをきっかけに 地元愛が醸成

(稲村) コロナ以前、伊豆は全国有数の1泊2日宴会ツアーの受入先として潤ってきましたが、コロナの影響は非常に大きく、うまく個人旅行にシフトできたところ、新たな需要を掴まえ、変化に対応できたところだけが生き残っているという状況です。

伊豆の国市はもともと伊豆長岡、菫山、大仁の3町が合併したまちで、伊豆長岡は観光と温泉、菫山は歴史観光資源と農産物、大仁は工業と自然遺産という特徴があり、これらを結びつけることにより新たな観光需要が生まれるの



稲村 浩宣 氏

では、と期待されていきました。
一度確立されたビジネスモデルを変えるというのは容易ではなく、宿泊料金の倍のお金を町に落としていってくれた団体客の穴をどう埋めるかは難しい課題です。そんな中、個々の観光施設や旅館のうち、たとえばペット同伴OK、B&B、離れ高級旅館というようにターゲットを絞ってリニューアルした施設が徐々に増えており、今年はありがたいことに大河ドラマの舞台になりました。

脚本家の三谷幸喜さんが時代劇場へ講演に来られた時、「北条義時が日本で一番有名な武将になる」とおっしゃっていました。正直なところ、地元でも義時を知らない人はたくさんいて、むしろ全国的に知られる北条早雲を大河ドラマに、という動きはありました。北条義時が降って湧いたように脚光を浴び、思いがけず、旧伊豆長岡の江間へスポットが当たったことで、江間の皆さんは非常に熱心に地域おこしに取り組みられ、今年6月に初めて「義時江間まつり」を開催しました。ドラマをきっかけに、歴史を介して地域愛や誇りというものが醸成できたように思います。

現状の伊豆の国市は、観光よりも三島沼津のベッドタウンとしての機能が大きくなっています。熱海や伊東に比べると観光産業全体の比率が下がっており、観光地として地元が熱を持って取り組めるかは微妙なところでした。その意味で今回の大河ドラマはうまく機能してくれたと思っています。

歴史×温泉×食のかけ算

(中山) 観光は地域が提供するサービスだと考

えると、この地を訪れる人にどのような価値を与えられるか、具体的にいかがでしょうか。

(秋山) 小説を書くときは一場面に3つの要素を入れ、後々伏線としてつながるよう考えます。そもそも一般の観光客からすれば歴史というのは地味ですし、歴史だけで人を呼ぶのは難しい。展示物を観るだけというのは歴史ファンなら喜ぶかもしれませんが、一般の人はどうでしょうか。歴史だけではなく複数の要素をからめるのが大事じゃないかと思います。

先ほどのお話で、伊豆長岡温泉がそんなに素晴らしい泉質だったとは知りませんでした。同じように知らない人がたくさんいると思います。温泉の魅力を全国や世界中に発信することができれば、歴史にも触れることができる。そして最後はやっぱり食です。道の駅のような施設を活かし、歴史と温泉と食をアピールすべきだろうと思います。

福岡県宗像市の『道の駅むなかた』は日本の道の駅として知られ、全国から視察もたくさん来ていますので、そういう先進地を研究してみるのもいいと思います。

アピール方法としては漫画もおすすめです。最近はスマホで読むための縦スクロールの漫画が増えており、一日に億単位で稼ぐ作品もあるそうです。ターゲットは国内のみならず世界のオタクといわれる人々。クリック回数も桁違いです。一過性のブームに乗るのはよくないと先ほどのお話にもありましたが、今の流行を知って乗らないのと、知らずに乗らないのは違うと思います。



秋山 香乃 氏

(中山) 歴史・温泉・食はかけ算のマーケティングです。漫画の縦

スクロールも今のスマホ世代にアピールする手段として押さえておく、ということですね。

韮山反射炉の 世界遺産登録時を省みる

(稲村) 韮山反射炉が世界遺産に登録されたのが2015年です。その数年前に歴史産業遺産に登録され、明治日本の産業革命遺産ということで世界遺産に認定されました。認定前の来客数は年間10万人程度でしたが、世界遺産に認定された2015年はその7倍に膨れ上がりました。

伊豆縦貫道の整備が進み、大場がつながったとき韮山はスルーされ、反射炉の来客数は4.8万人まで落ち込みました。それから世界遺産登録に向けてやや盛り返し、10万人までに回復しましたが、登録がかなっても実際にどれほどお客さんが来るのか地元では懐疑的で、地域全体で盛り上げようという動きはありませんでした。

70万人来た2015年の登録年も、6割は団体バス客でした。入場料金は100円で、今のようなガイドセンターもなく、反射炉の回りをグルッと回るだけで30分あれば十分。伊豆に入ってきて最初に長岡で降りて、反射炉で小1時間過ごしたらそのまま縦貫道に戻って目的地に向かう。そんな行動パターンが多かったものですから、伊豆の国市の他の施設と連動するというところもありませんでした。

それらの反省に立ち、今回の大河ドラマ館では市内の周遊や宿泊連動、地元商工業者が作ったものを物産館で販売するというカタチを採り、伊豆の他の観光地との連動も図りました。

韮山反射炉の時と大きく異なるのは、コロナ禍で団体客が1割以下という状況です。来館者12万人のうち、ほとんどが個人のお客様で歴史に関心のある方が多かったです。韮山反射炉は時代が違うせいか来客数にあまり変化はなかったのですが、大河ドラマ関連の願成就院や北條寺は大いに増えました。今までとは違う歴史観光というものが展開されたと見

ています。

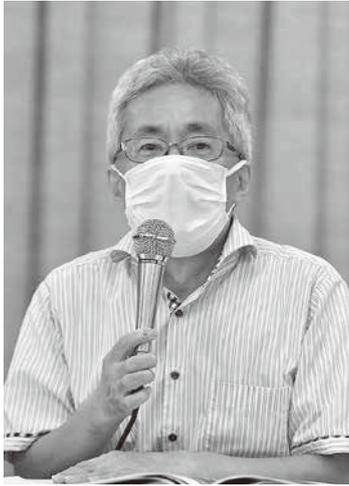
(中山) 温泉をキーワードに提供できる価値について、矢嶋先生はフィールドワークを通してどのようにお考えでしょうか。

人づくりの重要性

(矢嶋) ゼミ生は15人いまして、伊豆出身者はゼロ。伊豆長岡にはプラスのイメージを持っていた彼らですが、駅を降りても温泉がどこにあるのかわからず、国道を渡ろうとして激しい車の往来に驚いて落胆します。町内のイベントに参加しても地元の人から「どうしてここで研究するの？ 何もないところだよ」と言われる。先ほどのお話にあったように、三島や沼津のベッドタウン化が進み、観光に依存しなくても食べていける地域になっているんですね。それはそれでうらやましい話かもしれませんが、地元が観光を重んじていないということを学生は感じ取っており、「人づくりが大事だ」と実感しています。

地域と連携する際、今は補助金がたくさんついて観光特需の状態ですが、東京から無料バスを出したり、100円の周遊バスにお客が誰も乗っていないという状況が果たして正しいのかどうか。仕事のない旅行会社が地域活性化だと言ってみたり、データ系の企業や〇〇コンサルという人がやってきては東京でも伊豆でも九州でも同じような話をしてコンサル料を搾取していく。当然ながら、そういう人たちはバスのドライバーや饅頭屋の主人とは話ができません。

観光とは人がやるものであり、人間関係やノウハウが重要です。まちづくりをすぐやれと言っても難しいですが、人づくりは着しやす。この町を大きなバッグを抱えて歩いていれば観光客だとすぐに分かりますので、地元の子どもたちが笑顔で挨拶するだけで印象は変わるでしょう。加えて素晴らしい温泉がある。観光客にはこんな接し方をしたらいい



矢嶋 俊朗 氏

にしたほうがいい」「駅前の観光協会に駐車場がほしい」というものもありました。これからは車の利用者も増えることですし、富士箱根国立公園を含めたボーダーレスでの広域観光を推進すべきだろうと思います。

草津と下呂の腹をくくった取り組み

(徳田)『ゆこゆこ』の前回号で北条義時ゆかりの地を特集し、食事処として蔵屋鳴沢さんも紹介させていただきました。蔵屋鳴沢の抹茶うどんの器には北条家の家紋が入っているんですね。こういう仕掛けっていろいろ出来ると思うのです。

新茶の季節にはお茶摘み体験のメニューもありますが、若い人たちはお茶摘み体験というよりも茶娘の衣裳を着てSNSにアップしたいのです。もし北条政子の尼姿のかぶり物をどこかで着られたらかなりの反響があるでしょう。

この地域は気候温暖で食も豊か。観光地でありながら観光だけに依存せず、他にも働き口があってそんなに困っていない。お話をしている、非常におだやかで優しい人が多いというのが特徴です。他の観光地では「もっと儲けたい」「もっと人に来てもらわないと困る」と必死です。

草津温泉は全国温泉ランキングで19年連続第一位を獲得しています。草津町は観光以外の産業はほとんどありませんので、温泉によ

いという教育はすぐにできる。サステナブルな取り組みになると思います。

他、学生の意見としては「パノラマパークへの直通バスがほしい」「駅前の交差点を南條ではなく伊豆長岡温泉入口

る地域振興に必死で、町の中心にある湯畑周辺の開発をどうするか侃々諤々(かんかんがくがく)とやってきました。その結果、2010年から2020年の10年間で町の歳入は3倍になり、利益を投資に回すという好循環になりました。活気があり、やる気のある観光地には不思議なことに人は引きつけられます。「自分の町はいい町だ」「自分の町が好きだ」と言い続けている町が最後は勝つのです。

もう一つ、下呂温泉はDMOの取り組みで注目されている地域で、交通手段別宿泊者数のデータを昭和51年から取り続けています。宿のご主人に毎日お客様の交通手段を聞き取ってもらって手作業で集め、そのデータを活かし、団体客よりも自家用車客をジリジリ増やす取り組みを続けたそうです。使えるデータが手元にあり、現状を把握しなければ、DX化もできません。

下呂温泉の戦略は客観的な事実、客観的なデータに基づく計画を検証可能な状態で進めるということ。「我々を取り巻く環境の変化は、組織の都合を待ってくれない」という危機感を常に持っている。もともと下呂温泉は関東からも関西からも近いのですがやや交通に不便で、わざわざ下呂を選んでくれるだろうか？という視点を忘れず、ニーズの把握に努めています。マーケティングやマネジメントの知恵も大事ですが、何より地域が主導となって取り組むことが重要です。

コロナ禍を経験し、草津では若者世代に草津の良さをすり込むことに注力し、下呂ではシニア+女性をターゲットにし、スイーツの食べ歩きを仕掛けています。このように集客チャネルごとに年代と旅行形態を意識し、適正なバランスで組み合わせることで集客することが重要になります。この地域は非常に恵まれた地域ですので、地域ならではのアレンジを加えて取り組んでほしいですね。

(稲村)時代の変化と共にニーズも大きく変わっており、それに我々が対応しきれない部分もあります。受入側としてもっと危機

意識を持たねばと思います。伊豆は豊かで様々な資源がありますが、何が魅力的でどういう発信の仕方がいいのか気がついていない点もたくさんあります。

若い人の情報発信や受け止め方はどんどん変わってきています。たとえば韮山地区ではミニトマトを生産するニューファーマーが増えており、彼らは収益が安定すれば、農業＋アルファで観光につながる何かをやりたいと考えています。

観光とは、全ての人に関わる ことのできる特別な産業

(矢嶋) 三島に4年間いまして、地元の方々のバックボーンが分かるようになり、なかなかモノが言いづらくなっています。広域観光を推進するものの、各事業者の守備範囲というものもあるのも実感しています。

静岡の人はおっとりされていて、他の地域ではもっとえげつないことを言う人も多い。今は観光予算が付いていて、コンサルの中にはどちらかという和交流人口から入り、観光はおまけ、という人もいますが、この2つは一緒に考えざるを得ません。「のる～ら」は観光客が対象ですが、地元の人も乗せてしまえ、という学生もいます。将来的には地元の人が乗

車するなら地元の広報も流そうと。

定住やまちづくりに関しては知識がありませんので、観光のこと、地域のこと、お金の流れを含めてトータルで考える組織が必要だと思っています。地元のタクシードライバーや饅頭屋の主人の声も大事で、ヨソモノが来て勝手なことをやるのではなく、地元の人と話し合いながら進めるべきでしょう。

(徳田) 伊豆半島は時計回りに楽しめと言われたことがあります。東から入り、南に降りて、日本一深い駿河湾から日本一高い富士山を眺めるのは最高で、山梨側から見る富士山とは違い、伊豆半島からの富士山は裾野の方までキレイに見える日本一の絶景だと。眺めるなら東伊豆ではなく（無料の）西伊豆スカイラインを通りなさいと。実際に通ってみると言われたとおりで、外車のCMに使われるくらい気持ちのいいドライブルートです。伊豆半島は広いのでそれぞれの地域で考え方もいろいろあると思いますが、伊豆の魅力は誇るべき魅力です。皆さまのお人柄もいい。それが手の中にあるということを確認していただきたい。

とある県の総合計画の審議委員をしているのですが、その県は都道府県別魅力度ランキングの最下位にされていました。ただし地元の人々の幸福度の実感値は一位に近く、「自分



「私たちは困っていない」と言います。それでも外部の目から見て「いやいやもっとこういう魅力がありますよ」と言い続けていたら、だんだん変わってきて、今は最下位を脱出しました。それに比べると伊豆半島の魅力は一体いくつあるんだ、という話です。

著名なマーケッターが「観光というのは、全ての人が関わることのできる特別な産業だ」とおっしゃっていました。伊豆半島に住んでおられるお一人お一人が関わり、頑張っていたきたいし、ヨソモノの力が必要なときはお力添えをします。

(秋山) 地域が地域同士で一緒に取り組むことが大事だなと感じました。自分が観光するときは、ここ、次はあそこ、と点々と移動することが多いのですが、点と点を線で結べばもう

少し楽しめるんじゃないかなと思います。

今はSNSの時代ですので、SNSのバズリのほうがメディア広告よりも効果があるようです。ツイッターを見てどういうものが盛り上がっているのかを調べたら、公的な団体や企業の公式ツイッターが、一般のツイートに反応すると「自分たちのことをつぶやいてくれた」と喜ばれるみたいです。ある漬物会社の公式ツイッターは、一般ユーザーが自社商品を使ったメニューを投稿すると必ず反応し、「公式が見てくれた！」とユーザー同士で盛り上がりつつある。話題性のあるものを提供するだけでなく、長くバズってファンを増やす効果もあるようです。そんなSNSの力をうまく利用していただきたいと思います。

(中山) ありがとうございます。

〈出演者のご略歴〉

徳田 和嘉子 (とくだ・わかこ) 氏

ゆこゆこホールディングス株式会社代表取締役社長

東京大学法学部卒業後、南極含む世界一周52か国を巡る。帰国後はゴールドマン・サックス、投資会社を経て福岡県域ラジオ局・株式会社 CROSS FMで代表取締役社長を務め経営を再建。20年ゆこゆこ入社、21年6月より現職。

矢嶋 敏朗 (やじま・としろう) 氏

日本大学国際関係学部国際総合政策学科准教授

1987年(株)日本旅行入社。団体営業(伊豆への添乗100回)、ツアー企画、仕入(旅館や運輸機関との窓口)、新規事業、広告会社出向、日本旅行業協会出向(広報室長)、広報(足掛け20年担当。広報室長6年)などを担当。2019年4月、日本大学国際関係学部国際総合政策学科准教授。専門は、観光産業、観光人材育成。日本国際観光学会常務理事。清水町みらい会議委員。

稲村 浩宣 (いなむら・ひろのり) 氏

伊豆の国市観光協会会長 株式会社蔵屋鳴沢代表取締役社長

旧葎山町出身。横浜市立大学商学部卒業後、1983年4月に家業の合資会社鳴沢屋へ入社、1995年9月に同社代表社員に就任。1996年7月に株式会社蔵屋鳴沢設立、代表取締役就任し現在に至る。2018年5月から伊豆の国市観光協会会長。2021年5月からは大河ドラマ鎌倉殿の13人伊豆の国市推進協議会会長を務める。

中山 勝 (なかやま・まさる) 氏

一般財団法人企業経営研究所 理事長

島田市(旧金谷町)生まれ慶應義塾大学大学院経営管理研究科修了。スルガ銀行入社後、財団法人(現一般財団法人)企業経営研究所研究員、部長、常務理事を経て2020年より現職。専門分野は、経営戦略、マーケティング、地域経営。サンフロント21懇話会シンクタンクTESS研究員。静岡県、県内市町の審議会、委員会の会長、静岡産業大学経営学部客員教授、日本大学国際関係学部非常勤講師などを務める。

2022年度総会

中長期的視点で 継続的に取り組む地域創生

日時

2022年
5月30日(月)

～新産業創出、観光、動物愛護、
原・浮島地区
まちづくり構想支援～

会場

みしまプラザホテル



サンフロント21懇話会は5月30日、みしまプラザホテルで2022年度総会を開催した。会員の企業経営者、県・市町長ら行政関係者、県議ら約150人が出席し、本年度の活動方針案を承認。6月1日付けで清野眞司静岡中央銀行社長が懇話会代表幹事に、現代表幹事の岡野光喜氏は名誉代表幹事に就任することも報告された。

記念講演では外交ジャーナリスト・作家で静岡新聞客員論説委員の手嶋龍一氏が「プーチンの戦争にどう臨むかー台湾有事に影落とす中口の連携」と題して記念講演を行った。

主催者挨拶



静岡新聞社・静岡放送
社長

大須賀 紳晃

本日は大変お忙しい中、2022年度総会にご参加いただき、誠にありがとうございます。今年のゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたでしょうか。コロナの影響が続いていますが、3年ぶりに行動制限のない休暇を楽しまれた方も多く、伊豆をはじめ県内宿泊施設や観光施設も非常に賑わいをみせました。県内の感染者数は下げ止まりの状態ですが、ウィズコロナを見据え、観光業界でも活気が戻っているように感じます。

この夏は参院選が控えております。岸田政権の中間評価になるかと思いますが、有権者がどのような判断をするのか注目を集める選挙であり、県内でも立候補予定者が活発な動きを見せています。

海外に目を転じれば、ロシアによるウクライナ侵攻は終わりの見えない状況が続いています。経済分野を含めた混乱は日増しに大きくなり、不安定な世界秩序は我々の日常生活にも影響を及ぼし始めています。

今日の総会では外交ジャーナリスト・作家の手嶋龍一氏にウクライナ情勢について語っていただきます。国際秩序や日本への影響など、貴重なお話を伺えるものと期待しています。ちなみに手嶋氏は静岡新聞客員論説委員として論壇の紙面を担当していただいています。

当懇話会の活動は今年で28年を迎えました。地域活性化策の提言団体としての歴史を重ね、ここまでいくつかの提言を実現させることが出来ました。これもひとえに会員の皆さま方の熱意とお力添えのおかげとっております。今後も地域の方々を主役に、地域に密着した地域のために資する提言や研究活動に努めてまいりたいとっております。

会員の皆さま方のより一層のお力添えをお願いし、挨拶に代えさせていただきます。

懇話会副代表幹事挨拶



静岡ガス(株)
取締役特別顧問

岩崎 清悟

サンフロント21懇話会は静岡県東部の各エリアそれぞれの地域の特徴を生かして活性化の提言や支援に官民一体となって取り組み、地域でもその存在を知られることとなりました。これもひとえに会員の皆さまのご尽力のおかげであり、改めて感謝申し上げます。

コロナ禍によって長きに亘り行動制限が続く中、マスク装着の緩和やイベントの再開等、少しずつウィズコロナの動きも始まりました。県内では旅行代金の一部を補助する「今こそ静岡元気旅」が6月末まで延長となり、県東部や伊豆地区の観光関連業者様への需要喚起につながるものと期待しております。

本年度の活動方針に関しましては後ほどご審議いただきますが、アフターコロナの次なる発展につなげるため、懇話会が行政や民間と手を携え、地域全体の新たな観光戦略等を皆さまと一緒に考えてまいりたいと思います。

昨年開催された東京五輪・パラリンピックのレガシーを地域振興につなげる取り組みをはじめ、ファルマバレーやアグリイノベーションプロジェクト、セルロースナノファイバー実用化、トヨタのウーブンシティ等地域創生につながる新産業創出への支援、動物愛護と福祉思想の普及活動支援、原・浮島地区のまちづくり構想等、さまざまな県東部エリアの活性化策について、会員や地域の方々のご意見を伺いながら政策提言を進めてまいりたいと考えております。

皆さまの本年度事業への一層のご支援ご協力をお願いし、代表幹事の挨拶とさせていただきます。

記念講演

サンフロント21懇話会 2022年度総会

“プーチンの戦争”にどう臨むかー 台湾有事に影落とす 中口の連携

講師

外交ジャーナリスト・作家、
静岡新聞客員論説委員
手嶋 龍一氏



皆さまのお顔を拝見していると、情勢がめまぐるしく動いているのと同時に、本質的に今まで経験したことのない新しい世界のフェーズに入っていると感じます。テレビの討論番組では「ウクライナ情勢に詳しい」「ロシア情勢に詳しい」と肩書きの付く人が登場しますが、ウクライナ情勢に詳しい専門家がアメリカや世界全体の情勢に詳しいわけではありません。この機会に情勢を一度せき止めて、少し上から全体を俯瞰して見るということも重要ではないかと感じています。

バイデン大統領の“メガトン級の剛速球”

先日、バイデン大統領が来日し、日米首脳会談を行いました。ポイントはたった一つ、台湾情勢についての大統領の言及で、報道もされていますのでご存知だと思います。

あの発言の背景には長く険しい経緯がありますが、現在のメディアは、外務省のお役人の

ちょっとしたブリーフィングを基に原稿を書いているだけで、現代史に遡った考察に欠けているように思います。

バイデン大統領はアメリカメディアとの記者会見で大胆な球を投げ返しました。まず「中国が台湾に侵攻したら、米軍は防衛にコミットメントするのか？」という質問にどう応じたのか。その問いに対しては明確に答えないというのが従来の不文律でした。ところが、バイデン大統領は大胆にも「イエス」と明言したのです。台湾海峡を人民解放軍が渡ってきたら“伝家の宝刀を抜いて介入をする”と応じたのです。

日本は日米安全保障条約を結んで朝鮮半島有事には対応するとしてきました。しかし、実際には、日米安保の中央山脈には台湾有事があるのです。ですから、アメリカが台湾有事に介入すれば、日本も随伴せざるを得ない。従って、大統領への質問は、日本にとっても非常に重要な、“メガトン級の剛速球”だったのです。

“ワンチャイナポリシー”が生まれた舞台裏

事は1972年の「上海コミュニケ」に遡りません。私は71年夏に縁あって北京に滞在していました。あの歴史的な、米中和解のきっかけとなったヘンリー・キッシンジャーと周恩来が相まみえた瞬間の直後に北京の空気を体感しました。

69年から71年にかけての日本の前浜である東アジアの情勢はいかなるものだったか。ソ連・中国・アメリカが激しく対立していました。社会主義陣営を二分して中ソ両国は、ダマンスキー島(珍宝島)で武力衝突を繰り返していました。キューバのミサイル危機以来、人類は2度目の核戦争の深淵を覗き見たのです。この時、毛沢東や周恩来の立場に立って考えてみると、アメリカとソ連どちらが中国の真の敵か。核のボタンを押すかもしれないクレムリンに違いありません。中国にとって、それを避ける大胆な方策は、ワシントンと密かに手を結ぶことでした。当時のニクソン政権にしても、ベトナム戦争の泥沼から抜け出すには、中ソいづれか一方、可能性としては中国と手を結ぶことを選んだのでした。

しかし、当時のニクソン政権と毛沢東政権の喉元に突き刺さっていた大きなトゲ、それが台湾問題でした。ニクソン政権は台湾の国民政府を正当な政府として認め、一方の毛沢東政権は台湾を中華人民共和国内の一省にすぎないとしていた。キッシンジャーと周恩来がいくら知恵を絞っても、両者の主張は平行線のままです。

現下のウクライナ情勢もそうですが、外交上の手打ちというのは、互いに歩み寄るのではなく、交わるはずのない平行線を交わったと外交文書で表現するにすぎません。ウクライナ問題では「中立」というマジックワードを使いながら、ウクライナ、ロシア双方の思い描く「中

立」に両者を導く。これが“外交の技”なので。71年当時も、外交界の両雄が脳髓を振り絞って知的格闘を繰り返しました。

しかし、一向にらちがあかない。この時、ニューヨーク育ちの聡明な女性通訳が、コーヒブレイクの折、両雄を見て「あなたたちは20世紀の外交界の巨星と言われながら、この程度のことでは何をいまだにらちもあかないのか——」という表情をしたといいます。繊細な周恩来は「ならば、どうすればいいのか」と問いかけると、彼女は少しも慌てず「台湾海峡を挟む兩岸の中国人はそれぞれに“中国は一つ”と言っており、そう表現してはどうでしょうか」と応じたといいます。キッシンジャーはそれを書き留め、これが半世紀に亘って“日本の前浜”の波を穏やかする歴史的な外交文書になったのです。

翌72年のニクソン大統領初訪中で取り交わされたかの有名な「上海コミュニケ」の心臓部にあたる“台湾条項”として実を結びました。「兩岸の中国人は、それぞれに“中国は一つ”と言っていることを米国政府は事実として知り置いている」——。英語でrecognize(認める)と書けば、コミットメントに傾きますから、acknowledge(事実として知り置いている)と表現しています。中国側にとっては、米側を「一つの中国」にコミットさせるほうがいいはずですが、しかし、周恩来はあろうことかキッシンジャーにacknowledgeを使ってはと囁き、敵に塩を送ったと言います。外交交渉の舞台裏を物語ってドラマティックです。これが米国の“ワンチャイナ・ポリシー”の淵源となりました。

台湾海峡の危機は第三次世界大戦の火種

日米の両国政府は、首脳会談などの文書では決まって「台湾問題の平和的解決を望む」とい

う表現を使ってきました。菅前総理とバイデン大統領の首脳会談の共同声明やG7の声明にも受け継がれてきた重要な表現です。

わたくしはこれを「寅さん戦略」と呼んできました。72年の「上海コミュニケ」では、米中が和解のために使った表現、そう、米中の喉に突き刺さった棘を抜くための文言ですから「平和の枠組みが崩れた時には伝家の宝刀を抜く」と寅さん風に“手荒なことを言っちゃあお終いよ”というわけです。しかし現実には軍事力の発動の余地は残しておいた。キッシンジャーはちゃんと地雷を埋め込んでおいた、まことに恐ろしい文章でもあります。平和的枠組みが崩れ、中国の人民解放軍が海峡を渡れば、アメリカはこれを座視しないという意味が含まれています。

ならば、「伝家の宝刀を抜くぞ」と北京を牽制すればいいじゃないかと思えますが、この台湾条項にはより複雑な仕掛けが施されているのです。当時も今も台湾には独立を志向する人たちがいます。しかし、いかに過激な独立派も、実際に独立の旗を掲げてしまったら、北京は直ちに武力行使に打って出る。2004年に中国政府は反国家分裂法を制定し、台湾が独立の動きに出た場合は伝家の宝刀を抜くと定めています。どんなに愚かで過激な独立派も、公に独立の旗を掲げたら、中国は伝家の宝刀を抜くと心得ているはず。肝心なことは、中国の許容範囲を超えて台湾が独立に傾いたという判断は、ワシントンでも、台北でも、東京でもなく、そう北京が決めるのです。武力衝突のカギは北京にありと云っていい。いま世界中で、第三次世界大戦が起きるとしたら、台湾海峡が唯一の火種といってもいいでしょう。私たちのニッポンはそんな前浜に位置しているのです。

戦略的な曖昧さを敢えて残した文言で北京を牽制し、返す刀で台湾独立派も牽制する。こ

れほど込み入ったガラス細工のようなコミュニケをわたくしは他に知りません。武力行使をするか否か、歴代の米政権は明言してきませんでした。ところが、バイデン大統領は北京の前浜である東京の地で「侵攻があれば武力行使をする」と言い切ったのです。これによって「曖昧戦略」を捨てたのか。ホワイトハウスに在って台湾問題を統括しているカート・キャンベル・インド太平洋調整官はただちに「アメリカの政策はまったく変わっていない」と表明しました。

日本の安全保障にとってこれほど重要な大統領発言の意味を日本のメディアは歴史の経緯を踏まえて明晰に伝えているか。こう問われれば、残念ながら「十分とは言えない」と言わざるをえません。

バイデン大統領の“弱さ”

台湾侵攻の可能性が現にあり、台湾の国防相が「あと3年で準備が整う」と言っているのですから、台湾海峡の波は明らかに高まっています。その結果、日本が長きに亘って安保条約を結んできた超大国アメリカも、台湾海峡有事への備えを強めてはいますが、かつてのように超大国アメリカの戦略は必ずしも確かなものとはいえません。

超大国アメリカがいまウクライナの戦いへの対応に足を絡め取られていますので、台湾海峡のうねりは少しずつ高まっています。太平洋を介して、そのうねりはここ静岡の前浜にも少しずつ及んでいるのです。

バイデン大統領が「武力行使をする」と言ってしまった後、ホワイトハウス高官がただちにこれを否定する。そして、翌日には「台湾政策が変わったのか」と質問されたバイデン大統領は「今までと変わりはない」と答える。こうし

たアメリカ大統領の発言の揺らぎは、日米同盟の信頼性を損ない、北京にも誤ったシグナルを送ってしまう。まことに危ういと言わざるをえません。これほど危険な国際政局はかつてなかったと思います。

皆さんのお仕事にも関係する通商分野での問題も短く指摘しておきます。今回の東京訪問を機にバイデン大統領はインド太平洋経済枠組(IPEF)を発足させると表明しました。日本はTPP(環太平洋パートナーシップ協定)とRCEP(地域的な包括的経済連携)の双方に加盟しています。TPPもRCEPも関税の引き下げという重要なしくみがありますが、IPEFにはありません。

じつはTPPこそ日米が連携して中国に対抗して通商面から“対中包囲網”を敷く狙いがあったのですが、当時のトランプ大統領が反対し、政権発足初日に脱退を表明しました。日本はバイデン政権にTPP復帰を働きかけてきましたが、岸田総理が意を尽くして復帰を要請してもバイデン大統領はうんと言わなかった。先の大統領選挙で、必ず取らなければならない

中西部のオハイオ州と南部の要衝、フロリダ州を落として、ラストベルト地帯といわれるミシガン、ウィスコンシン、ペンシルベニアの白人労働者層にすがって、かろうじて勝利した。ですから、バイデン大統領はプアホワイトと呼ばれる白人労働者層が反対するTPPには参加できずにいるのです。

ただでさえ、次の選挙では負けそうなのに、TPPに復帰したら必ず負けてしまう。そこで、苦肉の策としてTPPではなく、IPEFという枠組みを立ち上げた。今のアメリカ大統領が選挙に弱いため、東アジア諸国が望むTPPには参加できずにいます。ここにも超大国の凋落の影を見る思いがします。

抑止を破ったのは誰か

今、ウクライナでは激しい戦いが続いています。戦争の様相はプーチン対ゼレンスキーから、プーチン対バイデンへと少しずつ変わりつつあります。



アメリカにとって「間接戦争」というのは大変やっかいなものです。私は過去5回ほどアメリカの大きな戦争取材し、大統領と共に前線にも赴きました。実は、戦後のアメリカは兵を前線に送らない「間接戦争」を経験したことがなく、大変に不得意なんですね。朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガン戦争、イラク戦争とアメリカは自国の兵を現地に送って戦ってきました。

そのアメリカの「間接戦争」も潮目が変わりつつあります。アメリカ上下両院がウクライナに、より重火器を大量に、迅速に送るための法案を成立させたからです。第二次世界大戦で、太平洋戦争はまだ始まらず、アメリカが参戦していない昭和16年3月、アメリカ上下両院は、当時のイギリスや中国に大量の武器を送る法案を成立させました。これによって真珠湾攻撃を待たず、ルーズベルト大統領は、「中立政策」を事実上捨てて、欧州での戦いに一步踏み出したのです。

プーチン大統領があらゆる国際法に違反した許しがたい戦争を起こしたことに議論の余地はありません。しかし、かかる戦争を抑止できなかった側の問題も冷静に議論しておくべきでしょう。

第二次世界大戦まで攻撃と防御の2つの概念しかありませんでしたが、核兵器の登場とともに「抑止」という概念も登場しました。今回のウクライナ侵攻の前も、プーチンに武力の発動を思いとどまらせる——そう、抑止の力が働いていれば局面は変わっていたはずで、これは台湾海峡で武力紛争が起きないようにするためにも重要な教訓となるはずで、武力紛争を未然に防ぐ点に抑止力をどう効かせるか。ウクライナで抑止が破られたのは誰の責任なのかを徹底的に問うておくべきでしょう。

バイデン大統領は2月17日、「アメリカ軍

はウクライナの戦争に介入しない。なぜならウクライナはNATOに加盟していないから」と重要な発言をしています。これまでのアメリカ大統領は、いついかなる戦争に際しても、大統領の執務室の机の上に「あらゆる手段」があると明言してきました。「あらゆる手段」の最たるものは武力発動にほかなりません。ところが、バイデン大統領は、初めから「武力発動」という選択肢を排除してしまったのです。

私は大統領に武力を発動せよとそそのかしているわけではありません。究極の選択肢として「武力発動」というカードは机の上に乗せておくべきと指摘しているにすぎません。アメリカ大統領が「武力発動は選択肢にない」と発言してしまえば、プーチン大統領は安んじて国境を越えるよう前線の部隊に命じたことでしょう。「バイデンの一言」は、「プーチンの戦争」を抑え込むことに失敗した。後世の歴史家はそう断じることでしょう。

今また、核戦争という恐怖の均衡の上に立つ

「ロシアのウクライナ侵攻はほぼ確実だ」。

米国のバイデン政権は、2・24の侵攻以前からそう断じてきました。実際、ロシア側はウクライナ国境に19万の精鋭を待機させ、ひたひたと迫っていたのです。しかし、プーチンが国境を越えよと命じるかどうか。国境の情勢だけでは決めつけられません。米国はクレムリンのプーチン側近から確かな情報を得ていたと思われます。

バイデン大統領は「ロシアがウクライナを侵攻した場合は、大規模な経済制裁を科す」と表明しました。それを聞いたプーチン大統領は「アメリカは武力による反撃には出てこない」とホッと胸をなで下ろしたはずで、

クレムリン情報が漏れている。KGB出身のプーチンはそう判断してFSB(連邦保安庁)の幹部150人を更迭したと伝えられています。プーチンにとっては、自らの権力基盤であるはずのFSBは「二重の罪」を犯したと怒りを募らせたのでしょう。

ウクライナを担当するFSBは、首都キーウは簡単に陥落させられるという楽観的な情勢報告をクレムリンにあげたが、その見通しは惨めなほどに間違っていた。そのうえ、極秘の情報が西側に漏れていた。しかし、プーチン政権の誤算はこれにとどまりませんでした。フィンランドとスウェーデンという中立国があることかNATOへの加盟申請に踏み切ってしまったのです。

「プーチンの戦争」によって、我々は“核の時代”のただなかに身を置いている現実を思い知らされることになりました。ウクライナでの戦争の開戦直後から、プーチンのロシアは「神の火」たる原子力に手をかけたからです。チェルノブイリ原発の制圧がそれでした。1986年に未曾有の原発事故を起こして廃炉になったのですが、核燃料棒はまだ残されたままです。ロシア軍は、続いてザポリージャ、南ウクライナにあるヨーロッパ最大の原発2つも相次いで制圧しました。ロシアは、原子炉を右手で押さえ、核の部隊には即応態勢をとらせて、左手では核ボタンに手をかけています。プーチンは「いつでも核戦争に訴えることができる」という脅しを欧米諸国にかけているのです。

我々は、冷戦が終わって、核戦争の危機は遠景に去ったとつい最近まで思い込んでいました。しかしながら、「プーチンの戦争」によって、核戦争の危険がなおすぐそこにあることを思い知らされたのです。広島、長崎の悲劇の後、世界はキューバと中ソ国境で核戦争の深淵を覗き見ました。

現在、アメリカとロシアは、それぞれ相手の都市を破壊できる長距離核ミサイルを互いに4,000発も保有して、相互の核抑止のシステムは一応保たれています。ひとたび核戦争が起きれば、地球は直ちに滅んでしまう。ですから、いかに愚かな指導者も長距離核ミサイルのボタンには触れようとしません。これが“恐怖の均衡”と呼ばれてきたものです。

しかし、いまウクライナの戦域にこうした核の相互抑止が働いているのか。プーチンは超小型の核兵器を使う可能性が捨てきれません。ところが、ウクライナを含めて西側陣営には、小型の核兵器が十分には用意されておらず、ウクライナの戦域に限っては、戦術核の相互抑止は必ずしも効いていないのが実情です。プーチンの小型の核を抑止する手段を現在の西側陣営は十分に持っていないのです。それだけに局地的な核戦争が起きる可能性があるともみておかなければなりません。

1970年の終わりから80年代の初めにかけて、ソ連は中距離核ミサイルを東ヨーロッパに配備しました。当時の西側陣営はこれに対抗する中距離核を持っていなかったため、核の深刻な脅威にさらされることになりました。そのため西ドイツのシュミット首相とアメリカのレーガン大統領は、“NATOの二重決定”という大変に重要な決定を下しました。すなわちパーシングII型ミサイルという中距離核ミサイルを西ドイツなどに配備することを決めたのです。そして、同時に米ソ双方の中距離核を全廃するための交渉に入ったのです。これが二重の決定と呼ばれる所以です。1987年によりやくINFの全廃条約が締結され、これが東西の冷戦を終結させる序曲となったのでした。私は若いワシントン特派員としてこの調印式に立ち会いました。当時と同じような危機がいま欧州の地に出現しようとしているのです。

キューバ危機の13日間に学ぶこと

核の時代の真っ只中になお生きていることが明らかになった我々は、人類が初めて核戦争の深淵を覗き見た1962年10月の“キューバ・ミサイル危機”はいまなお重い意味を持っています。

ジョン・F・ケネディ大統領は、危機勃発の初日、ホワイトハウスの執務室に入っていくと、緊張した面持ちの補佐官、軍の幕僚たちが待ち構えていました。カストロによる社会主義革命が起きたキューバに、あろうことか、クレムリンが中・長距離の核ミサイルを持ち込んでいという衝撃的な事実が明らかになったのです。米軍の偵察機がカリブ海に浮かぶキューバの上空から撮った写真が捉えていました。“キューバ危機の13日間”はこうして幕を開けました。日本に対する大量・無差別の戦略爆撃を主導した米空軍の闘将、カーチス・ルメイは、キューバ危機当時、空軍トップの作戦部長。彼はただちにキューバのミサイル基地を空爆し、ミサイルの脅威を取り除いてしまうべしと若き大統領に迫りました。危機の後に明らかになったのですが、米軍が補足していたミサイルの他にもソ連製の核弾頭とミサイルは持ち込まれていました。米空軍が空爆を敢行していれば、ニューヨークやワシントンは、核攻撃を受けて壊滅していた可能性があったのです。

40代半ばでホワイトハウスに入らなければならなかった若きケネディ大統領は、選挙運動に明け暮れ、外交・安全保障に精通した賢人たちを多くは知りませんでした。そんな息子に父のジョー・ケネディは「大統領として窮地に陥った時には、ロバート・ラヴェット（朝鮮戦争時の国防長官）に頼れ」と助言していました。ケネディ大統領は深夜密かにホワイトハウスを抜け出して空軍にも絶大な影響力を誇った

“智慧のフクロウ”に会いに行ったのでした。

長い沈黙の後、ラヴェットは凄みの効いた声で「貴方は核のボタンに手を掛ける覚悟はおありか？」と質します。ケネディは「それがアメリカ国民とヨーロッパ同盟国のためになるなら、そうしようと思う」と振り絞るような声で答えます。再びの沈黙の後、ラヴェット翁は「あなたにその覚悟があるなら、策を授けられるかもしれない」と、一つの策を授けます。このくだりは、ケネディがその夜、自らテープに吹き込み、いまに残されています。いわゆる「キューバ危機の機密テープ」と呼ばれている一級の史料です。後に私はこのテープに拠ってドキュメンタリーを制作したことがあります。

歴史が物語っているように、アメリカは第三艦隊の総力を挙げて海上封鎖を行い、一発の砲弾も撃たずにキューバ危機を終わらせました。クレムリンは「ケネディは核のボタンを押すかもしれない」と決意が伝わり、危機の13日間は静かに幕を下ろしていきました。核戦争の覚悟を固める、という究極の決意が、核戦争を回避する道を開いていくという究極のジレンマのなかに現代世界はおかれている——そんな状況はいまも当時も少しも変わっていないのが現実なのです。

現下のウクライナ戦争はいつ終わるのか、もはや何人にも見通せない情勢です。和平交渉も少しもすすんでいません。トルコの調停では望み薄でしょう。中国の習近平主席が、プーチンとバイデンを仲介すれば、あるいは進展があるかもしれません。いまの中国には調停をやり遂げる政治力、軍事力、経済力を備えているからです。しかし、中国が調停に成功し、ノーベル平和賞でももらってしまえば、中国の国際的な権威は高まり、台湾の無血開城につながるかもしれません。そして日本列島には北京から烈風が吹き付けてくることになるでしょう。このところ、中口の艦艇が連携しながら津軽海

峽に姿を現し、台湾海峡を窺う機を狙っています。我々の頭上にはいま「量子科学衛星」というアメリカも持っていない最新鋭の中国の情報衛星が周回しています。「習近平の中国」はいまや海に、空に、そして宇宙に力による進出を続けています。そうした情勢のもと、台湾海峡では危機が音もなく高まりを見せているのです。

李登輝氏の「遺言」

私自身は、10数年に亘るワシントン勤務を通じ、また帰国後も、台湾有事への備えを放送、新聞のコラム、インテリジェンス小説などを通じて一貫して訴えてきました。その意味で、台湾の総統を務めた李登輝氏へのインタビューは最も心に残るものでした。

1996年、中国は台湾島を取り囲むように4発のミサイルを発射しました。いわゆる「96年台湾海峡危機」がそれです。当時の李登輝総統は、この危機の勃発を事前に予測し、株価や土地暴落を防ぐ仕組みをつくり、中国に最高の情報要員を送り込んで、これに備えたのでした。長時間にわたるインタビューを終えて、玄関から辞去して車に乗り込もうとしたとき、「96年の危機では自分が全力を尽くして、何とか事なきを得た。だが、中国人民解放軍は、アメリカ軍の圧倒的な軍備のもとに兵を引いたが、これを“96年の屈辱”とうけとめ、今日の中国軍拡の出発点になった。この次に台湾海峡の危機が顕在化したときには、わが愛してやまない日本の危機になると伝えてほしい」といわれました。

いま、台湾海峡に危機が起これば、アメリカ第七艦隊は真っ先に駆けつけるでしょう。日米の安全保障の盟約は、朝鮮危機と台湾危機を想定したのですが、いまや専ら台湾危機を想

定したものというべきでしょう。米国の第七艦隊に随伴し、横須賀や呉から日本のイージス艦が出動し、対潜哨戒機や潜水艦も出ていくでしょう。

一方で、中国としては、台湾は自国の一省に過ぎないという立場をとっていますから、「日本は中国の内政に干渉するのか」「日中国交樹立の際の“一つの中国”政策を覆すのか」と最大の反撃に出るに違いありません。尖閣諸島の国有化の際の何万倍もの強硬策を打ち出してくることは必定です。日本の自動車メーカーが全中国に持っている工場の操業をただちにストップさせ、その経済的影響は甚大なものになるでしょう。それゆえ、自由民主党の安全保障関係の議員の中で、自動車メーカーと関係が深い議員の中には「台湾海峡危機が起きても、日米安保の適用は簡単にはできない」と本音を漏らす政治家もいるほどです。しかし、アメリカからすれば、日米安保はいまや台湾危機に備えてのものでありますから、日本が後ろ向きな姿勢を示せば、日米安保の終焉を意味することになります。台湾海峡の危機は、文字通りいまのニッポンにとって、進むも地獄、退くも地獄というわけです。力の行使に向けて備えを怠らないことは言うまでもありませんが、わが国にとってはどんなに困難でも外交の力によって事態を乗り切る方策を考えるべきでしょう。

日本のモノづくりの最前線にいる皆さん、皆さんのお仕事、そして日々の暮らしの前提としてきた安全保障上の環境が大きく変わりつつあることを自覚し、皆さんも力を尽くして日本の進路を誤りなきよう導いていただければ幸いです。

ご清聴ありがとうございました。

ラジオマイトーク



令和4年5月8日放送

タブレット端末とスマホで営業活動

そごう けんじ
十河 健二氏

日本生命保険相互会社沼津支社長

モットー ▶ 即断・即決・即行

趣味 ▶ ゴルフ、筋肉トレーニング、
城郭巡り、寺社仏閣巡り

出身地 ▶ 札幌市

お話のポイント

♠ コロナ禍で一気にデジタル化が進んでいます。営業職員にはタブレット端末を一人に一台、それに携帯電話を全てスマートフォンに替え、リアルな営業活動とデジタルな営業活動を併用しています。タブレット端末で契約手続きをしてもらいます。感染対策で職場に出入りできない、リアルでお会いできない、離れた場所からでも情報提供できるようにしています。

♥ 少子高齢化、超高齢社会など多様なニーズに対応して多種多様な商品をご用意しています。健康増進、資産活用、相続、事業継承などあらゆる

面で役に立ちます。

◆ 3大疾病の保険で愛称「3充マル」を新発売し、多様なニーズに対応しています。3大疾病のがん、急性心筋梗塞、脳卒中の3大疾病に診断された時には保険金が出て治療費に充てられます。3大疾病状態になる前の狭心症、脳動脈瘤の場合でも一部保険金を先に支払います。

♣ 東部地域でデジタルを使ったアプリでデジタルウォーキング大会を行い歩数を競い、商品がもらえます。

令和4年7月3日放送



コロナの難局打開へ冷凍弁当開発

うの ひでひこ
宇野 秀彦氏

(株)桃中軒代表取締役社長

モットー ▶ 人事を尽くして天命を待つ

趣味 ▶ 映画鑑賞、スポーツ観戦

出身地 ▶ 沼津市

お話のポイント

♠ 鉄道が敷かれて間もない明治24年に創業し、私で5世代目になります。社名の桃中軒の由来は、初代が明治維新後、徳川家と一緒に静岡に移り、沼津市桃郷でお茶屋を始めたその地名から屋号を取りました

♥ 心を込めておいしいお弁当をお届けすることが身上です。以前は15種類ほどありましたが、コロナ禍で5種類に絞って販売しています。一番人気は「港あじ鯨」で、次が「あしたか牛すき弁当」です。地産地消で食材選びをしています。「鯛めし」は明治後期から続いているお弁当です。

◆ コロナ禍で苦しい状況が続きますが、冷凍の駅弁を開発し、販売を始めました。容器の選定や、冷凍に適さない食材の変更などで時間がかかりました。また、健康を重視した「しずおか健康生活応援弁当」を開発しました。地元の食材を使い、栄養・健康面に注意を払いながらおいしいものを目指しました。スーパーやドラッグストアで今後販売して販路を広げ、さらにネットでの販売でギフトへの対応もしていくつもりです。

♣ 地元でフィルムコミッションのお手伝いをさせていただいています。

〈お詫びと訂正〉

会報No.126、22ページ「ラジオマイトーク」内にて誤りがございましたので、お詫びして訂正いたします。

東洋レヂン(株)取締役市場開発部長 深澤聡様の出身地

(誤) 伊豆の国市(大仁) → (正) 富士宮市

サンフロント21懇話会の 会員情報

■ 新たに入会された方

- ◇静岡県中小企業団体中央会…………… 東部事務所 所長 押尾 昌俊
- ◇内海総合法律事務所…………… 弁護士 内海 雅秀
- ◇(株)百一酸素…………… 代表取締役社長 市川 裕史
- ◇(一社)美しい伊豆創造センター …… 専務理事 植松 和男

■ 会員の変更

- ◇(株)石井組…………… 代表取締役社長 石井 誠 → 石井 肇
- ◇日本電気(株)静岡東部支店…………… 支店長 升森 淳治 → 小山内 諭
- ◇(独)国立高等専門学校機構
沼津工業高等専門学校…………… 校長 中村 聡 → 岡田 哲男
- ◇沼津市立病院…………… 病院長 卜部 憲和 → 伊藤 浩嗣
- ◇ダイハツ沼津販売(株)…………… 代表取締役社長 直井 稔一 → 池原 勉
- ◇沼津開発興業(株)…………… 代表取締役 河西 晋二郎 → 橋口 司
- ◇宇徳通運(株)…………… 代表取締役社長 小笠原 一夫 → 大谷 雄樹
- ◇三島信用金庫…………… 理事長 平井 敏雄 → 高嶋 正芳
- ◇(一社)伊豆市観光協会…………… 会長 長谷川 卓 → 勝呂 克彦
- ◇(株)SBS情報システム…………… 代表取締役社長 渡邊 治彦 → 松澤 正典
- ◇SBSマイホームセンター(株)…………… 代表取締役社長 川村 正行 → 川端 浩之
- ◇(株)静岡新聞社…………… 執行役員東部総局長 植松 恒裕 → 海野 俊也

■ 団体名、会員の変更

- ◇三島函南農業協同組合…………… 富士伊豆農業協同組合
代表理事組合長 勝沼 和明 → 代表理事組合長 鈴木 正三
- ◇静岡県農業協同組合中央会東部支所…………… 静岡県農業協同組合中央会中東部支所
東部支所長 望月 映延 → 中東部支所長 鈴木 琢磨
- ◇コアレックス三栄 代表取締役 黒崎 泰 → コアレックス信栄 代表取締役社長 黒崎 暁

■ 肩書、会員の変更

- ◇(株)静岡新聞社 執行役員デジタルビジネス局長 知久 昌樹 → 編集局長 石川 善太郎
- ◇静岡放送(株) 代表取締役社長 榛葉 英二 → 代表取締役 谷口 智康
- ◇静岡放送(株) 取締役編成業務局長 谷口 智康 → 編成業務局長 松浦 康弘
- ◇静岡放送(株) 執行役員 報道制作局長 伊藤 充宏 → 報道制作局長 原木 雅雄

■ 肩書の変更

- ◇(株)JTB中部静岡支店 川島 誠司 営業担当部長 → 営業推進部長
- ◇(一財)アグリオープンイノベーション機構
岩城 徹雄 専務理事兼事務局長 → 専務理事
- ◇(株)静岡新聞社 大須賀 紳晃 代表取締役社長 → (株)静岡新聞社・静岡放送(株)
代表取締役社長
- ◇(株)静岡新聞社 荻田 雅宏 取締役編集局長 → 取締役新聞製作担当